

いつ来てもいつ帰ってもいいキャンプ・冬

- 開催日 2017年12月26日～12月31日
- 会場 国際自然大学校 日野春校（山梨県北杜市）
- ディレクター名 鷲田 晋（ワッシー）

■キャンプのねらい

- 2017年の最後の数日を、悔いのないように遊ぶ。
- 田舎の冬を楽しみながら、日本の年越しの文化を学ぶ。

■同行スタッフ（キャンプネーム）

こばりん、きぎ、やっち、かほち、まよ、きのこ、まっく、あみこ、ちえる、ゆっこ、よもじ、こっこ、とっぼ、まいまい、トトロ

■活動内容

- <1日目>
集合、日野春校到着
作戦会議
- <2日目>
ミニ門松作り
オオムラサキセンター見学&VS
カウンセラー
焼きマッシュマロ
- <3日目>
ほうとう作り
焼きリンゴ
- <4日目>
凧づくり&オオムラサキセンター
で遊ぶ
- <5日目>
もちつき
アイスクリーム作り&駅伝
- <第6日目>
タイムカプセル作り



キャンプのスタートは、日野春の施設めぐりから始まりました。



「冒険の森」で、お互いを知るためのゲームをしました。



明日に向けての作戦会議、みんなやりたいことがいっぱいです。



食事の席は、くじで毎回かわり、いろんな人と交流できます。



「ミニ門松作り」。助け合いながらのこぎりで竹を斜めに切ります。



一人一人装飾が違って、個性があらわれる「ミニ門松」が出来ました。



誕生日をキャンプで迎えた子には、手作りのカートとケーキでお祝い。



オオムラサキセンターでは、人気のハンモックで遊びました。



オオムラサキセンター内の幼虫に、子どもたちは釘づけでした。



夜のプログラムは「焼きマシュマロ」。火の暖かさがうれしいです。



キッチンスタッフが作ってくれる食事はおいしくて、毎食完食でした。



食事の配膳の準備も、子ども達が交替でします。



焼きリンゴづくり、食べるためにみんな夢中で準備をします。



粉を丸めて、伸ばして山梨の名物「ほうとう」の麺も作りました。



自己紹介シート。これも最終日にタイムカプセルに収めました。



お昼ご飯は自分たちで作ります。29日はお好み焼きでした。



ストローとビニールで作った凧。風によってよく揚がりました。



「凍っているかな?」。凍った池におそろおそろ靴を近づけてみます。

■キャンプのエピソード

ゆずりあい

27日の午後は、オオムラサキセンター公園に出かけました。公園内にはいろいろな遊具がありますが、その一つにハンモックがあります。ハンモックはバランスを崩して落ちる危険性があるので、ひとりずつ交替で乗ることにしました。すると、2人の男の子がハンモックの前ですっと話をしているなかなか乗ろうとしません。どうしたのかなと思って行ってみると、「先に乗っていいよ」「僕が押さえているから君が先に乗っていいよ」とお互いにハンモックを譲り合っているようです。ハンモックは子どもたちに大人気で、いつも「俺が先に乗る」「いや俺が先だよ」と乗る順番で揉めます。そんな中、自分ではなく相手のことをまず考えて、お互いに「ゆずりあう」2人の姿は、寒い冬の日中、心暖まるものがありました。

なりすまし

29日の夕食後の出来事です。ホワイトボードに「カウンセラーへのメッセージ」が書かれていました。発信人はディレクターである私。ひとりひとりに対してコメントが書かれているのです。「A君：もっとご飯をしっかり食べるように。B子さん：声が枯れないように気をつけてね」といった感じです。もちろんディレクターの私は書いていません。しかし書かれたメッセージはどれもキャンプカウンセラーの様子をよく捉えていて、的を得たコメントでした。書いた人は26日から来ている上級生のC子さん。上手にディレクターに「なりすまし」していました。このメッセージはキャンプ最終日の31日まで続きました。我々スタッフはC子さんにしっかりと見られていることを自覚して、より一層気をひきしめてキャンプ運営をしたことは言うまでもありません。



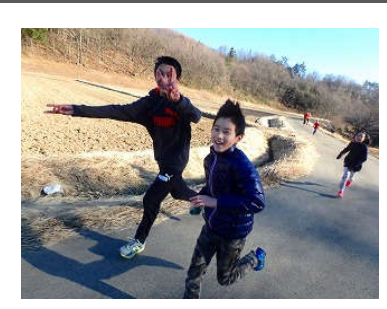
アニメ「ちはやぶる」の影響で、百人一首が毎日行われました。



恒例のおもちつき、掛け声を掛けながら交替でつきました。



ついたお餅は、きなこ、しょうゆ、あんこでいただきました。



日野春校の周りを走った「駅伝」。連帯感がぐっと高まります。



最終日、タイムカプセルに入れる寄せ書きをみんなで書きました。



「いついつ」の思い出が詰まった缶をモモの部屋の近くに埋めました。



6日間を過ごした研修棟の前で記念撮影。



お別れの会。楽しかったこと、おいしかった食べ物を発表します。



「行ってらっしゃい」と見送られて、歩いて日野春駅に向かいます。

■キャンプのエピソード

5年後の「タイムカプセル」

最終日は「タイムカプセル」をみんなで埋めました。大きな白い布にひとりひとりがメッセージを書いて、壁に貼ってあった自己紹介シートと一緒に四角い缶に収めました。自己紹介シートは、既に日野春から帰ってしまった参加者やスタッフの分も含めて入れました。埋める場所は「いついつ夏」の活動場所である中段デッキの通称「モモの部屋」の北側です。穴は高学年の男の子が掘ってくれました。このタイムカプセルはいつ空けるのかということが話題になりました。気の早い子どもは「春のいついつで開けようよ」と主張します。中学生の子たちは自分たちがキャンプに来れるうちに空けて欲しいと心配顔です。「5年たったら開けようね」ということになりました。5年間の内には東京オリンピックがあり、小学1年生の参加者は6年生になります。2022年12月31日、ここにいる全員と再会できる日がくることを、今からとても楽しみにしています。

車窓からのメッセージ

最終日の同行のでき事です。帰りの電車は特急の通過待ちで、甲府駅で約20分停車します。甲府から来ていた兄弟が駅で降りましたが、まだ電車は停車したままです。ホームの兄弟と車両の子ども達との間で、しばらく「また会おうね」「元気でね」といったやりとりがあり、2人は階段を登って去っていきました。もう会えないかなと思っていたら、線路の向こう側にある歩道に来てくれて、再び手を振ってくれました。車両の中の子どもたちは大感激です。車両から2人へ手を振ったり、声掛けが始まりました。しかし車両の窓はしまったままで声は届きません。すると一人の男の子が、自分のノートを破り大きな文字で「夏また会おうね」と書いて、車窓に掲げました。兄弟は大きくうなずいて、手を振って去っていきました。大晦日の20分のドラマのような時間でした。